

2019年9月24日
日本船主協会 海事人材部

フィリピン MAAP 学生および商船系高専学生対象に講演を実施

日本船主協会では、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な船員確保のための広報活動を展開しております。

2019年9月5日(木)、6日(金)に、MAAP 練習船“Kapitan Gregorio Oca” 広島港初寄港 歓迎式典に後援し、また翌日には、「KGO」船内で、卒業後は日本商船隊での活躍を期待されている MAAP 学生および商船系高専学生を対象に、日本の海運についての講演を行いました。

9月5日(木)にフィリピンの船員養成学校である MAAP (Maritime Academy of Asia and the Pacific) 練習船 Kapitan Gregorio Oca 号の広島港への初寄港に伴い、国際船員労協会主催の歓迎式典が全日本船舶職員協会の共催および国土交通省、全日本海員組合、MAAP、5 高専、弊協会の後援により、宇品埠頭にて開催されました。式典には、国土交通省より磯野大臣官房審議官、広島県田邊副知事ご臨席のもと、関係者約 200 名が出席し C to Sea プロジェクトの公式アンバサダーの STU48 との交流会も行われました。

翌日 9月6日(金)には、当協会の田中・國塩より、「KGO」船内で MAAP および商船系高専の学生を対象に、日本の海運について英語による講演を行いました。海運の重要性や、船種の紹介などを行いながら、学生たちの将来の活躍に期待をしている旨を伝えました。

学生からは、「これまで船で訪れた中で訪れた中で一番きれいだった場所はどこか」等の質問が挙がったほか、すでに乗船実習の経験のある日本の 5 校の商船系高専の学生が実習の様子について伝え、意見交換を行いました。

将来のビジネスパートナーとなる日本人学生とフィリピン人学生が、お互いを知り、尊重し合う関係づくりへの第一歩となりました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後も優秀な日本人海技者確保に向け、関連機関と協力して幅広い活動を継続していくこととしています。



MAAP 学生と Kapitan Gregorio Oca 号



講演会の様子